

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣研究報告書

2010 年 11 月 1 日

派遣者氏名（専門分野）	松尾 佳代子（西洋史学）
-------------	--------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	修道院史料からみる 11・12 世紀フランスでの文書史料の有用性
-------	----------------------------------

派遣期間

2010 年 4 月 23 日 ～ 2010 年 10 月 21 日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問 研究 機関	フランス	パリ	高等研究院	L・モレル教授
	フランス	パリ	国立図書館	

派遣先で実施した研究内容

今回の訪問研究機関である高等研究院においては、受入研究者である L・モレル教授のセミナーに参加し、文書史料の年代考察に関する専門知識を学ぶ一方、週に一度、派遣者の研究の進捗についてモレル教授と話し合いを行うというペースで作業を進めた。

刊行史料の再調査

モレル教授からは、まず、主要な史料であるサン・シプリアン修道院のカルチュレールについて、刊本編纂時に行われた史料批判を一から再検討するよう助言された。というのも、この史料は L・レデの監修のもとで 1874 年に刊行されて以来、史料の再調査が行われていないからである。このため、当初計画していた作業に入る前に、約 2 カ月を費やして、手稿史料と刊行史料を照合しながら、収録証書の年代判定や人物同定といった史料分析を行った。この結果、収録証書の区切り、番号の割り振り、年代判別、地名同定など刊本編纂時の分析の不備が明らかになった。

類似資料（ダックス司教座教会カルチュレール）の分析

派遣者は、サン・シプリアン修道院のカルチュレールの特徴として、地理的分類によって整理された 600 通以上の収録証書を、地図上でほぼ後戻りのない一本の線で辿ることができる点を指摘し、この証書分類と修道院所領の巡察ルートとの重なりを仮説的に主張してきた。これについて、司教区内の教会所領が巡察ルートに沿って整理されているという類似点をもつ、南西フランス・ダックス司教区のカルチュレールを参照するようモレル教授から勧められた。修道院と司教座教会とでは組織の性格はやや異なるものの、12 世紀の南西フランスで非常にシステムティックなカルチュレール編纂が行われた事例であり、カルチュレールという史料類型の分析としても、教会組織の所領管理の実態を理解するための比較例としても、このカルチュレールの検討は示唆に富むものであり、サン・シプリアン修道院のカルチュレールの実務的機能をより説得的に示す上で、大いに役立った。

叙述史料（聖人伝）との関係の考察

派遣者は、カルチュレールに叙述史料に通じる文化的機能を想定しその論証を目指していたが、聖人伝や修道院設立譚などの叙述史料がこの修道院で作成されなかった点について、モレル教授から見解をまとめるよう求められた。そこで、改めて叙述史料の不在を確認するとともに、サン・シプリアン修道院の守護聖人シプリアンの登場する『聖サヴァン殉教録』の考察を行った。この殉教録は、中世初期に修道院改革で名を馳せたサン・サヴァン修道院において、11世紀末に編纂された。共に殉教者として地域で聖人視されていた聖サヴァンと聖シプリアンが兄弟として描かれ、聖シプリアンは弟として従属的な位置づけにある。サン・シプリアン修道院にある聖シプリアンの聖遺物は、実は10世紀初めにサン・サヴァン修道院から移送されたものである。また、11世紀末にはサン・シプリアン修道院から派遣された修道士がサン・サヴァン修道院長になるなど、両者の結び付きは深かった。このような状況を考慮すると、サン・シプリアン修道院にとって、聖シプリアンはサン・サヴァン修道院への従属を想起させる存在であったのではないかと考えられる。サン・シプリアン修道院において、聖シプリアンの伝記だけでなく聖人崇敬にさえ関心が払われた形跡がないことは、この点に合致する。

#### フランス語論文の執筆

史料の文書形態学的・古書体学的分析の部分から執筆を開始し、論述内容・フランス語の文章表現などモレル教授による原稿チェックを受けた。

### 研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

研究スケジュールの第1段階における計画の変更および国立図書館の改修工事もあって、研究スケジュール第2段階のフランス語論文の執筆にかかる時間は、当初の計画に比べて大幅に縮小された。その結果、論文の執筆は本プログラム終了後も継続して行うことになった。しかし、基礎的な史料批判に時間を割き刊行史料の誤りを見つけたことで、史料の文書形態学的考察およびテキスト分析からは、文書史料に特徴的な実務的機能に加え、叙述史料に期待される文化的機能をも当初の予想以上に明確に導き出すことができた。

カルチュレールの：5本の従属院巡察ルートに従って整理された修道院資産

伝える記憶①（司教・教皇による従属施設の確認、司教・教皇代理主宰の法廷記録を含む）

カルチュレールの：「修道院の自由」の確立

伝える記憶②（ポワチエ司教との協同・自治権・教会改革への熱意・反クリュニー）

実務的機能：聖俗権力者による現有資産の保証、従属院別の資産管理レファレンス

文化的機能：所領形成にまつわる修道院史の構築、増加した従属院の修族への統合

つまり、サン・シプリアン修道院でのカルチュレール編纂は、空間的・歴史的な修道院の自己規定への強い関心によって後押しされていたことが指摘できる。

### 派遣後の研究発表の予定

今回の派遣プログラムにおいては、史料分析とそれをもとにしたフランス語論文の執筆にあたったので、この論文をフランスの学術雑誌“Revue Bibliothèque de l’Ecole des chartes”上で発表することを考えている。今後も、引き続きフランス高等研究院のL・モレル教授と密に連絡をとりながら、論文の執筆を続け、今年度もしくは来年度の論文投稿および掲載を目指す。